

「インド洋津波被害による観光地の被災状況等官民合同調査団」

調 査 報 告 書

国土交通省、日本旅行業協会等の14名で構成した「インド洋津波被害による観光地の被災状況等官民合同調査団」（团长：田口芳郎旅行振興課総括補佐）を、平成17年3月1日から6日まで、タイ王国のバンコク及びプーケットに派遣した。

構 成：

国土交通省	田口芳郎 柴田 聡	旅行振興課課長補佐 国際観光振興課コンベンション振興 指導官
(社)日本旅行業協会 (株)日本旅行	福島志幸 吉原大司 米谷寛美 岩崎裕幸	観光企画課調査員 観光地域振興課調査員 事務局次長・業務部長 東日本海外旅行商品部・アジアチーム 課長
日本通運(株)	森下昌彦	東京旅行支店総務・業務部 e-販売 促進グループ課長
タイ国政府観光庁 タイ国際航空 東京海上日動火災(株) 日本アイラック(株)	ハイソーン ワンサーイ 黒岩 一 小林寛司 山下寿人	東アジア地区局長 日本地区旅客営業本部長 旅行業営業部開発課長 クライシスソリューション事業部マネ ージャー
航空新聞社 (株)トラベルジャーナル トラベルビジョン(株)	印南有理 鈴木清美 鈴木次郎	週刊ウイングトラベル・日刊旅行通信 記者 論説主幹 日刊トラベルビジョン編集長



タイ国際航空 ワロップ副社長等
との会談風景



タイ国観光スポーツ省 サシタラ
観光開発局長との会談風景



パトンビーチ付近での視察風景

訪問先：

在タイ日本国大使館	吉田朋之(参事官) 田坂拓郎(二等書記官) 新屋千樹(二等書記官)
国際協力機構タイ事務所	佐藤幹治(所長) 鈴木和哉(職員)
観光・スポーツ省	Sasithara Pichaichannarong (Director-General, Office of Tourism Department) Thanitta Maneechote(Deputy Director-General)
観光庁	Juthamas Siriwan (Governor, Tourism Authority of Thailand) Santichai Euachongprasit(Deputy Governor) Eurblarp Sriphiromya (Chief, East Asia Section, Overseas Offices Coordination Division)
タイ国際航空	Wallop Bhukkanasut(Vice President) Veeraphong Phongpaitoon (Director, Traffic Planning Dept.) Teerapol Chotichanapibal (Director, Royal Orchid Holidays Dept.) Pongput Voranate (Regional Director, The Americas and East Asia Region)
バンコク・フーケット病院	Sompoch Nipakanont(Assistant Hospital Director) Hiroko Takase(International Coordinator)
プーケット県	Udomsak Uswarangkura(Governor of Phuket Province)
プーケット観光協会	Kitti Phattanachinda(Committee Member)
プーケット日本人会	宮下和司(会長) 山口 満 (事務局長) 宮谷内泰志郎(Japan Thailand Diving Network 代表) 田中友紀子 (Sales Manager, Merlin Beach Resort)
ウオラホン ウォンウイリヤクン	(Phuket Japanese Market Tour Operator Network 会長)

他

1. はじめに

観光は、プーケットをはじめとする今回の津波被災地6県の最重要産業であり、プーケット県知事によればプーケット県の就労人口の90%が観光関連産業に従事している。津波の影響により被災地では、一次災害として、物理的・精神的な被害を受けたが、それ以上に、観光客の減少によるいわゆる二次災害により、生活収入の手段を失った方々が多いものと思われる。1月の日本人プーケット訪問者数は1,200人、対前年比△95%（欧米人△66%）であり、タイ国政府観光庁によれば、プーケットの観光産業従事者約10万人のうち、2万人が解雇・一時帰休されている。それ以外にも各業種の方々に悪影響を及ぼしたであろう。

今回の調査では、スマトラ沖地震に関わる「広域情報」（日本国外務省による複数の国や地域にまたがる広い範囲で注意が必要な情報）がすでに2月3日に失効されている被災地の経済的復興を願い、被災・復興状況を調査するとともに、風評被害を取り除いて日本人観光客数の回復を図るため、特に衛生・安全面についても聞き取りを含めた調査を行った。



(プーケット復興委員会ホームページより)

2. 津波が観光に及ぼした影響

- ビーチ別被災ホテルの状況（5頁 地図参照）

	ビーチ名	ホテル数	営業中	改修中・閉鎖中
1.	バンタオ	14	12	2
2.	カマラ	6	3	3
3.	パトン	90	71	19
4.	カロン	33	32	1
5.	カタ	21	21	0

（3月11日現在、プーケット復興委員会ホームページより）

- 予約キャンセル率
被災以前に入っていた予約のうち、95%がキャンセル（3月まで）
- 宿泊施設予約率
 - 1月 7%
 - 2月 30%（バンコク 77%）
 - 3月 50%（見込み）
- 日本人観光客向けホテルの状況
46軒のうち
 - 20軒：被害なし
 - 17軒：営業再開
 - 5軒：リノベーション中
 - 4軒：修復中（含・リノベーション）
- サンゴ礁被災
10～20%損傷（ボランティア・ダイバー等により復旧済み）
- GDP下落率
0.5～1.0%（IMF）
- バンコク（ドン・ムアン）空港国際旅客到着者数
 - 1月 約65万人（対前年比△18.7%）
 - 2月 約65万人（対前年比+7.1%）
 （2005年見込み=1,340万人）

3. ビーチの状況

プーケットにおける主要な観光地は西海岸に集中している。西海岸には、南北に11のビーチが並んでおり、それぞれにリゾートホテルが軒を連ねている。

調査団は、そのうちの主要な5つのビーチと、プーケットから北へ約100kmにあるビーチを視察した。

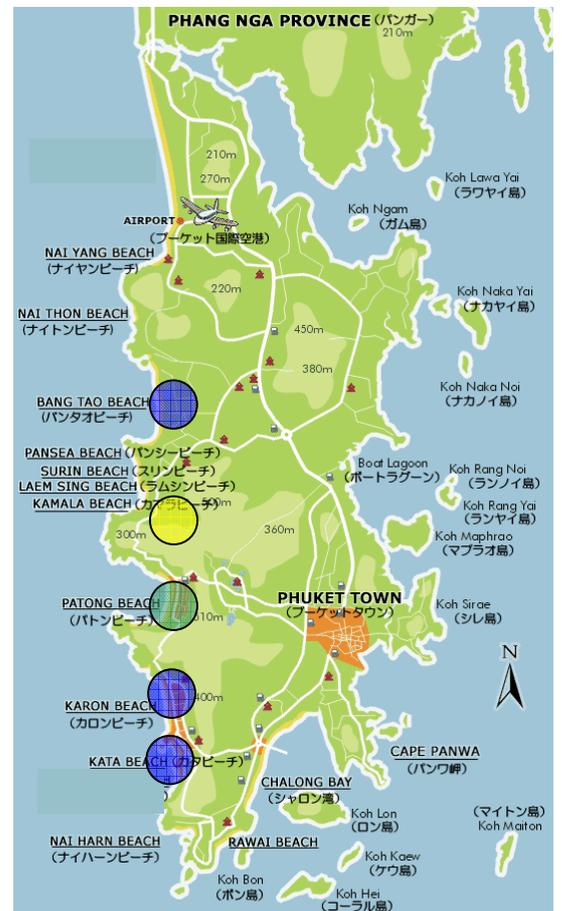
津波による被害状況は、各ビーチによって全く異なっている。

ほとんどのビーチは通常通りの営業を行っている一方、津波の爪痕がはっきりと残っているビーチもあった。

欧米からの観光客数は、比較的早く回復しているが、日本人観光客はほとんど戻っていない。視察したビーチにおいても、日本人の姿は（調査団や報道陣以外）全く見あたらなかった。

今回視察した観光地の状況は以下の通り。

- ・ バンタオビーチ ●
- ・ カマラビーチ ●
- ・ パトンビーチ ●
- ・ カロンビーチ ●
- ・ カタビーチ ●



(平成17年3月4日現在)

● : 被災の跡はほとんどなく、通常通りの観光が可能
● : 被災の跡が一部に残るが、通常通りの観光が可能
● : 被災の跡が大きく残り、観光に制限がある

本報告書に使用している写真はすべて、本調査団が平成17年3月3～4日に撮影したものです。

(1) ビーチの状況

① バンタオ・ビーチ



- 市街地からは離れ、錫堀跡のラグーンの周囲に5つのホテルが点在している。それぞれのホテルをシャトルバスとシャトルボートで結び、他のホテルの施設もサインのみで利用できるよう利便を図っており、家族連れやカップルに人気の高級リゾート地区である。
- 津波による被災の跡はほとんど見られない。
- 来訪者には、視察団以外の日本人は見あたらなかったが、欧米人のカップル、家族連れ、グループなどは見受けられた。
- 調査団が訪問した「デュシット・ラグーナ・リゾート・ホテル」は、海岸線から数メートル以内にあったビーチサイドレストランと一部宿泊棟の1階部分が破損し修復中であった(写真右・ベニヤ板で囲まれている部分)が、その他の宿泊施設、プール、レストラン、スパ等は被災していない。ビーチ沿いの芝生は植え替えられ、池には錦鯉が泳いでおり、滞在を楽しむことができる(なお、ビーチサイドレストランは4月中旬、修復中の宿泊棟1階部分は3月中旬に復旧予定)。

② カマラ・ビーチ

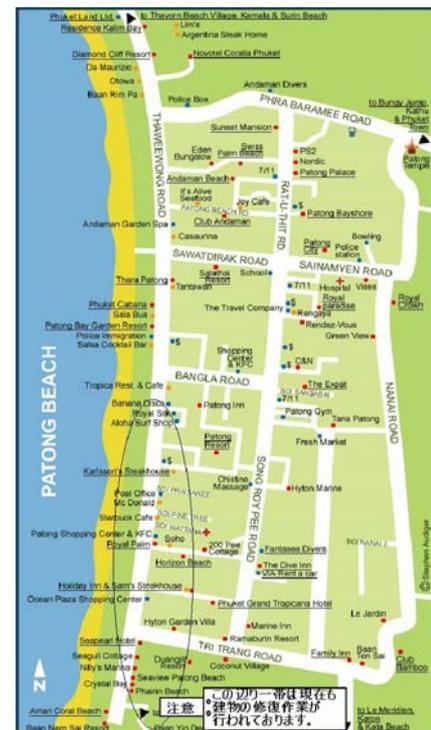


- 被災前から日本人の来訪者は比較的少なく、欧米人が中心のビーチである。
- ビーチから内陸部500m付近まで津波が押し寄せ、大きな被害を受けたため、6軒中3軒のホテルはいまだ復旧作業中であり現在営業していない。
- 被災規模の割には、復旧のスピードは早く、ビーチはすでに美しさを取り戻している。

③パトン・ビーチ



- プーケットの中心的ビーチであり、日本人観光客も最も多く訪れる地区である。
- 大きな被害を受けたが、復旧は進んでおり通常通りの観光が楽しめる。
- 中心的ビーチということで、タイ政府がカマラビーチと共にもっとも力を入れて復旧に取り組んでいる地区である。
- ビーチに平行する1本目の通りでは、特に南側の一部商店などで復旧が進んでいないところもある（図右）ものの、2本目の通りやビーチに直角に走るソイ・バングラ通りは被災しておらず、昼夜を問わず住民や旅行者で賑わっていた。
- 被災以前は、ビーチにパラソルが乱立して美観を損なっていたが、被災後はパラソル数の規制も含め、美観の保持に取り組まれている。（被災前約7,000本→現在約1,500本に規制）
- すでに多くの欧米人が数週間～3ヶ月間のLONG STAYを楽しんでいる（写真左）が、日本人は見あたらなかった。
- ホテルの中には、被災に伴う復旧が目的ではなく、観光客数が減ってしまったこの時期を利用して戦略的にグレードアップのためのリノベーションを実施しているところもある。（写真右：ホリディ・イン・リゾート・プーケット）
- 調査団は、日本人観光客が70%を占める「ダイヤモンド・クリフ・リゾート&スパ」において、プーケット日本人会の方々による観光復興の現状と日本人観光客の動向についてのプレゼンテーションに、日本から来訪した約200名の旅行関係者とともに参加したが、同ホテルは通常通り利用できる状況であった。



JTBホームページ（3月8日現在）より



④カロン・ビーチ



- 欧米人を中心とした長期滞在者に人気のビーチである。
- 建物は比較的高い位置にあり被害はほとんどないが、海岸線とビーチに平行して通る道路までの間にある芝生は枯れている（写真中央・右）。
- 他のビーチも同様であるが、津波により海水が攪拌されそれに伴いビーチの砂が入れ替わったため、海も砂も津波以前よりも美しくなっており、「鳴き砂」が楽しめるほどである。
- 調査団は「プーケット・アルカディア・ビーチ・リゾート（オペレイテッド・バイ・ヒルトンインターナショナル）」（写真右）において、タイ政府観光庁・タイ国際航空が主催する「アンダマン・リカバリー・ミーティング」に、全世界から集まった約750名と共に参加したが、同ホテルに被災の跡は全く見られなかった。

⑤カタ・ビーチ



- 10数年前までは数軒のバンガローしかない地区だったが、クラブ・メッドによる開発が進み、欧米スタイルのビーチを形成している。
- 津波の影響はほとんど見られない。
- 「クラブメッド・プーケットバカンス村」では、施設の一部が被災し、従業員用の施設はリノベーション作業中であったが、宿泊者向けの施設は通常通りの営業が行われていた。
- 欧米人中心のビーチであったこともあり、観光客数が最も回復しているとのことで、今回の視察の中では最も多くの観光客で賑わっていた。しかし、ここにも日本人観光客の姿はなかった。
- 調査団は「カタタニ・タニ・リゾート&スパ」にて、プーケット県知事とのミーティングを行ったが、同ホテルに被災の影響は全く見られなかった。

(参考) カオラック

プーケット島から北へ約100km・パンガー県内

調査団は、プーケットの5つのビーチに加えて、カオラックを訪問した。ここはプーケット内のビーチとは異なり、被災の跡が広範に残り、当分の間、通常通りの観光は困難という印象を受けた。



被災前



現在



- 日本人にはまだ知られていないが、近年注目を集め始めた地区である。
- 甚大な被害を受けたため、プーケット内のビーチとは異なり、復旧にはまだ時間がかかると思われる。
- 海岸線から1km以上離れた場所に、タイ海軍の艦船が放置されており、津波の威力を物語っている（写真左上から2番目）。
- 海岸線のホテルでは、未だに瓦礫の山が残されている（写真左下の2枚）。このホテルは、2004年12月24日にオープンしたばかりであり、開業から3日目で被災した。
- 調査団が訪問した「サロジン・ビーチ・リゾート」は、本年1月10日のオープンに向けて準備万端（写真中央の2枚）であったところを被災（写真右の2枚）した。このホテルは、オープンを9月に延期して再建中である。オーナー夫妻は、「泣くか、立ち上がるか、どちらかしかないでしょ」と明るく話し、その前向きな姿勢に、視察団はタイの方々の復興にかける意気込みを感じた。

(2) その他

- 空港・道路・電話・水道・ガス・電気等のインフラは完全に復旧しており、通常通り利用可能である。
- 治安に関しても、昼夜を問わず、悪化を感じさせるものはなかった。
- ビーチ以外の観光スポット（プーケット・タウン、エレファント・トレッキング、プーケット・ファンタシー、蘭園とタイ・ビレッジ等）には津波の影響は全くなく、通常通り営業を行っている。
- プーケットへの国際線の運航は、被災後減便されたが、かなり回復してきている。定期便は韓国・香港線が早期に再開後、搭乗率は比較的回復傾向にある。観光客が多く利用するチャーター便は、北欧線・ドイツ線で再開している。日本を結ぶ定期便は、成田ープーケットの直行便が3月2日に週4便で再開。3月27日から週7便で運航予定。関空ープーケットの直行便も3月2日に週3便で再開。6～7月から週4便で運航予定である。ただし、日本からのチャーター便需要はいまだに回復していない。



4. 衛生状況



- 衛生面に関しては全く問題がない。
- プーケット観光協会では、ウェブサイトにより安全情報等の最新情報を提供すると共に、タイ国厚生省が海水の水質、海産物の安全性及び伝染病の発生がなかったことの確認をしている。
- タイ国厚生省では、国際基準（ISO 17025）に基づいて、被災6県において74標本（33の料理、41の飲料水、氷等）を検査したところ、汚染物質が発見されなかった。
- タイ国厚生大臣は、宣言文を出して観光客に安全性を保証している（次頁参照）。

タイ国厚生省

タイ国へ観光に訪れる外国人の方へのお知らせ

去る2004年12月26日にタイ国南部6県を襲った津波により、怪我をされた方、亡くなられた方、或いは未だに行方不明が確認されていない方等多くの方が被害を受けました。厚生省ではその後に心配された二次感染の被害を踏まえ、医療チームや医療補助員が上記の各被災地を回り予想される二次感染、特に消化器系、呼吸器系、蚊等の昆虫から媒介される病気、遺体に触れた事による感染症についての調査、予防接種、管理等の様々な活動を実施して参りました。しかし被災日から現在に至るまで、心配された上記の様な伝染病は如何なる種類の病気も発生しておりません。

タイ国厚生省では各諸外国、外国人観光客の皆様に対し、津波後の二次感染等への心配は全く無く、自信を持ってタイ国への観光をお勧めすると共にタイ国内の安全を保証致します。

2005年1月14日発行

MR. スチャイ ジャルーンラッタナグン

タイ国厚生大臣

5. 治安状況



- 津波後の治安の状況は津波前と大きな変化はなく、とりわけ悪化したような状況は、ビーチ周辺や繁華街においても見られない。
- 在タイ日本大使館では、プーケット日本人会からの問い合わせに対し、プーケットの治安について、「一般観光客に対して津波以降、事件・事故が特に増えているという情報はなく、治安が以前と比較して、悪くなったとの認識はない」とのコメントを発表している。
- 治安悪化の原因となりうる雇用問題（観光産業従事者の失業問題）についても、現在タイ国政府からの積極的な復興補助金や復興に係るマスタープランの導入による観光施設や産業設備の復興需要があり、また、今後プーケット地域は経済面においても順調な回復基調が予想されるため、治安については全く問題ないと思われる。

6. 復興キャンペーン等

(1) マーケティング施策

プーケットをはじめタイ観光地への旅行需要の早期回復に向け、タイ国政府観光庁をはじめタイ国際航空、タイホテル協会、タイ旅行業協会が協力し、タイ国内外の旅行者や旅行会社、テレビや新聞などメディアに対し、さまざまなキャンペーンによる積極的なプロモーションを展開している。

キャンペーン予算としては、タイ国政府観光庁が4億バーツを掲げ、海外施策へ3.5億バーツ、国内施策へ0.5億バーツを充てることとしている。年間約120万人がタイを訪れる日本人旅行者の需要回復には8千2百万バーツが充てられ、日本国内において各種キャンペーンが実施される。



視察風景

① 海外向け施策

➤ 世界各国からメディアや旅行会社を対象とした視察旅行(ファミトリップ)の実施

1. すでにタイを訪問したメディアや旅行社は300にも及ぶ。
2. 1000名規模のメガ・ファミトリップの実施。

⇒ アンダマン・リカバリー・ミーティングの開催
(3月5日プーケットにて)



アンダマン・リカバリー・ミーティング

- タイ国政府観光庁とタイ旅行業界によるロードショー
- 海外で開催される旅行博への参加
- 北欧、オーストラリア、アジアからの直行チャーター便の運航再開
- ホームページによる最新現地情報の発信

② 日本向け施策

- 成田・関西ープーケット直行便の運航再開
⇒ 3月27日から成田直行便はデイリー運航化
- 旅行会社の窓口担当者を対象とした視察旅行(ファミトリップ)を継続
- 新聞、雑誌、テレビ関係者を対象とした視察旅行(ファミトリップ)の実施
- 「Loving Andaman Program」(格安パックスツアー)の発売
- 「元気!プーケット!」プログラムの開始
⇒ テレビや雑誌等のメディアを通じた広報宣伝
⇒ 統一ロゴの作成(右参照)
- 一般旅行者向けモニターツアーの実施
- 一般旅行者の投稿による現地情報の公開
- 旅行会社による共同キャンペーンの実施を検討
- 「愛・地球博」のタイ国ブースを活用したPRを検討
- 「タイ・フェスティバル2005」(5月14日-15日、代々木公園にて)



③ タイ国内向け施策

- スペシャルパッケージの発売
- インセンティブ・ツアーや会議の積極的誘致

(2) 観光における文化復興と振興施策

アンダマン地域における生活様式の文化や風土を復興または振興する施策を実施する。

- 地元へ元気や激励を贈るセレモニーの実施
- ビーチ・アートの開催
- 現代アート・センターの建設

(3) 新しい観光資源の開発

津波による被害を受けた漁船、家、車、ビレッジなどを維持・保存し、1000年に1度の大災害の記憶を後世に引き継ぐ“津波メモリアル・スポット・プロジェクト”を実施する。

- メモリアル・スポット（津波記念碑）の設置
（各ビーチ）
- 津波メモリアル・ミュージアム（パンガー県）
 - ・津波シミュレーションの設置
 - ・津波監視のリアルタイム警戒機器の設置
- プークェット国際コンベンションセンター建設



海岸線から1 km以上離れた陸地にタイ海軍艦船が残る。これを中心に津波メモリアルミュージアムを建設予定

(4) アンダマン地区の持続可能な観光振興に関する長期施策

長期的な施策として、プークェットを中心とした観光地整備を進める。国際空港の拡大によって、旅客の拡大を図るなど、タイ南部のアンダマン地区を世界有数の観光地へと積極的に開発を進める。

- アンダマン連絡道の建設
（ラノン、パンガー、クラビ、プークェット、トラン、サトゥンの6地域を結ぶ）
- プークェット国際空港施設の拡大（2～3年以内）
- クラビ空港の国際化と滑走路の拡張（2005年秋）
- 総合アンダマン観光計画の実行



カタ・ビーチ



カロン・ビーチ沿いのホテル



バンタオ・ビーチ沿いのホテル

7. 安全対策

プーケットの復興計画は、被災前の状態を取り戻すことにとどまらず、タイ国政府主導で、「より安全な」ビーチを実現するための安全対策が強力に、かつ、計画的に進められている。

とくに、日本人旅行者も多く訪れるパトン・ビーチや、カマラ・ビーチについては、タクシン首相の主導のもと重点的に復興事業が行われている。



パトン・ビーチ



カロン・ビーチ

【復興計画の概要】

- ① フェーズ 1 (2005年3月まで)
 - “安全なビーチ” = 早期警報システムの導入、ライフガード設置
 - “美しいビーチ” = 美観の維持に配慮した施策の実施
- ② フェーズ 2 (2005年10月まで)
 - “パトン・ビーチの津波フリー・シティ計画”

タイ国政府観光庁では、プロジェクトチームを設置して、従来の雑然としていたパトン・ビーチを統一したデザインで整理し、監視塔の建設、保護的砂丘の設置、ビーチ沿いの植林、道路拡張、電力線埋設及びビーチでの営業規制（例えば、パラソル数を7,000から1,500未満にする）を行う。

上記の計画に沿って、タイ国政府の津波復興委員会や観光・スポーツ省、タイ国政府観光庁、タイ国際航空、タイホテル協会、タイ旅行業協会、プーケット県庁、プーケット観光協会など官民一体となって“アンダマン観光”に関する復興戦略を進めており、その中で地元住民、観光業従事者、学生、旅行者を対象とした津波を含む自然災害に対する安全対策の整備が行われている。

また、安全対策への予算措置については、被災後早期の段階でマリン・ウォッチ・サービスセンターの建設にタイ国政府が3千2百万バーツを、海軍が6千8百万バーツを計上するなど、国家の重要課題として優先的に行われていることが伺える。

(1) 観光地における安全対策

“The Safer Beach” (海洋観光、ビーチの安全対策)

- 安全・衛生基準の策定
- “早期津波警報システム”の導入(インド洋沿岸国や国際機関等との協力)
- タイ国海軍艦船による潮汐観測の実施
- “マリン・ウォッチ・サービスセンター”の建設
(早期警報システムの導入、ライフガードチームの配置)
- 警報伝達システムの整備
(旅行者や地元住民を対象とし、サイレン・ライト・ラジオ・携帯端末等を活用したシステムを整備する)
- 各ビーチ間を結ぶ警報伝達システムの整備
- ビーチからの避難経路とその告知体制(表示など)の整備
- ベイ・ウォッチ・タワー(監視塔)の設置
- “アンダマン・セイフティ・パトロール”やビーチ警備員の設立
(旅行者の人命救助、応急処置、緊急避難の支援を目的とし、地元政府や国立海洋公園、タイ国海軍と連携により体制を整備する)
- ビーチ沿いの一定範囲内における新規建設の禁止
(ホテル、レストラン、パブなどの旅行者用施設は、ビーチから離れたところに建設。パトン地区では海岸沿い30m以内を禁止)
- 建築会社に対する安全基準の順守を指導
- ビーチ沿いの建物の1階部分を空洞化する取り組みを試験的に実施
- 緊急避難対策に関するセミナーの開催を検討

(2) 観光地における安全対策に関する日本の技術支援

日本は、地震や台風など多くの自然災害を経験しており、宿泊施設をはじめとした観光施設における避難対策(マニュアル整備、避難経路の表示、従業員の訓練等)は非常に高い水準にある。今回の関係者との面談を通じても、タイ国政府が、旅行者の心理的不安の解消や安全の確保のため、ホテルの自然災害に対する安全対策等に非常に関心を寄せていることがあらためて確認されたことから、正式な要請があれば日本から専門家を派遣するなど、可能な限りの技術支援を検討していく意向である。



カマラ・ビーチ



パトン・ビーチ沿いの道路



プーケット・ファンタシー

(3) 自然景観の維持

被災地域にダメージを与えた一方で、津波は、輝き透き通った海水や美しい砂のビーチを残していった。カロン・ビーチでは鳴き砂が戻り、パトン・ビーチでは砂の白さが深まるなど、20年前のきれいなビーチが再び戻っていると地元の人々はコメントしている。また水質が改善した水中では、従来生息していなかった魚が観察されるなど、ダイビングスポットとしての魅力もさらに高まり、世界有数のビーチリゾートへと急ピッチで復興が行われている。



パトン・ビーチ

タイ国政府では、このような美観の維持を踏まえた復興を掲げており、下記のような取り組みが行われている。

自然景観へ配慮した復興事業

- ・ 防波林として海岸線への植林を実施。

ビーチの美観維持へ向けた取り組み

- ・ ビーチ内の不法店舗の排除
- ・ ビーチ・パラソルの数量制限

(4) 観光地の医療体制

プーケットタウンを中心に、最先端医療サービスと国際水準の医療技術を十分に備えた病院がいくつかあり、日本の代表的な保険会社との契約提携もしているため、各種海外旅行傷害保険のキャッシュレスサービスで受診が可能である。その一つ、バンコク・プーケット病院では、外国人旅行者の受診を想定したサービスを行っており、日本語を話せるスタッフが常勤するなど、日本人旅行者の安心したプーケット滞在を可能としている。

■ バンコク・プーケット病院

(Bangkok Phuket Hospital)

プーケット県内に11のクリニックを配備し、医師数は常勤60名、非常勤45～50名の体制を整えている。また、救急車6台、集中治療室15室、手術室5室を完備し、日本語対応スタッフも常駐している。外国人患者への対応として、大使館への連絡や空路による移送サービスなども行っており、津波被災時には日本人患者20名を含む1,035名の治療を行った。被災20日後の1月15日には通常の体制に戻り、現在は平常通りの医療サービスを行っている。



バンコク・プーケット病院

8. まとめ

(1) 日本人観光客の受入体制は既に十分なレベル

プーケットでは、空港・道路・電話・水道・ガス・電気等のインフラは完全に復旧している。津波が襲った西海岸に点在するビーチリゾートについては、日本人観光客に人気の高いところは、海やビーチそのものは従来以上の美しさを取り戻し、ホテル、レストラン等の観光関連施設も、ごく一部で未だ復旧のための工事やこの機会を利用したアップグレード工事が進められているものの、そのほとんどが通常通りの利用に問題のない状況であることが判明した。そのほか、治安、衛生の観点からも、特段の問題は発生しておらず、全体として、日本人観光客の受入体制は既に十分に整っていると判断した。



(2) 風評被害の防止のための積極的な支援が必要

被災後2ヶ月が経過したが、プーケットを訪れる観光客数の回復のペースは遅く、全観光産業従事者のうち2割が既に解雇・一時帰休されるなど、観光業に大きく依存する現地の経済に甚大な影響を及ぼし続けている。その中でも、日本人観光客は、1月の訪問者数が前年比で95%減となるなど、特に減少が著しく、また回復のペースも遅いことが判明した。日本人観光客は現地にとっても巨大なマーケットであり、風評被害の防止のため、



タイ国政府、現地の自治体、観光産業が一体となって様々な努力を行っているところであるが、我が国政府及び旅行業界としても、旅行者への公正・客観的な情報提供、キャンペーンへの協力等を通じ、支援を行っていく必要があると判断した。

(3) 現地では「より安全な」ビーチの実現のための取り組みが進展

プーケットの復興計画は、被災前の状態を取り戻すことにとどまらず、タイ国政府主導で、「より安全な」ビーチを実現するための安全対策が強力に、かつ、計画的に進められている点を確認された。それには、タイ国独自の津波早期警戒システムの導入（既に実施済み）、ライフガードの組織化、観光客への伝達メカニズムの整備等、ソフト面のほか、ビーチ沿いの植林や建築物の移設等、ハード面も含まれる。我が国は災害対策において高水準なノウハウを持つ国であることから、例えば観光関連施設における避難経路や避難マニュアルの整備、訓練の実施等の分野における技術的支援に対し、タイ国政府関係者が高い関心を持っていることが判明したため、今後、正式な要請を受けて、具体的な検討を進めていくこととしている。



9. 関連サイト

- タイ国政府観光庁
<http://www.thailandtravel.or.jp> (日本語)
<http://www.tourismthailand.org> (英語)
- 観光スポーツ省
<http://www.mots.go.th/home/home.asp>
- プーケット観光協会
<http://www.phukettourist.com>
- プーケット日本人会
<http://www.phuket-fukko.com>
- タイ国際航空
<http://www.thaiair.co.jp/special/special/genki/index.html>
- バンコク・プーケット病院
<http://www.phukethospital.com>
- 在タイ日本国大使館
<http://embjp-th.org/indexjp.htm>
- 外務省 (海外安全ホームページ)
<http://www.pubanzen.mofa.go.jp>
- 厚生労働省検疫所 (海外感染症情報)
<http://www.forth.go.jp>

<以下、日本の旅行業界による情報提供>

- 日本旅行業協会
<http://www.jata-net.or.jp>
- JTBバンコク支店 (What's New)
<http://www.jtb.co.th/whatnew.asp>
- 近畿日本ツーリスト (プーケットホテル現地情報)
http://www.knt.co.jp/kaigai/041227hkt_2.html
- 日本旅行 (現地状況等)
http://www.nta.co.jp/news/news_hkt/index.htm
- ジャルパック (現地状況)
<http://www.jal.co.jp/tours/jlpk>
- 阪急交通社 (ホテル被害状況)
<http://www.hankyu-travel.com/comm/news/050111.html#srilanka>

- A & A（現地情報・ホテル状況）
<http://www.aatour.co.jp>
- 日本通運（現地状況）
<http://www15.nittsu.co.jp/travel/info/info02/thailand-houkoku.pdf>

<以下、同行業界紙誌による情報提供>

- 航空新聞社（特集記事）
<http://jwing2.exblog.jp>
- トラベルビジョン（特集記事）
http://www.travel-vision-jp.com/phuket_report/
- トラベルジャーナル（特集記事）（3月末日公開予定）
http://www.tjnet.co.jp/special/phuket_200503.htm